

現代経営学演習

担当：藤原 賢哉

I 演習の目的

現代経営学演習は、専門職学位論文を作成するための研究指導（演習スタイルの授業）です。通常の修士論文では、学界に対する貢献やアカデミックな厳密性が求められますが、専門職学位論文は、それらに加えて、経営実務に対するインプリケーションが求められます。つまり、経営学の論文であると同時に、実務社会（経営幹部、同業者、産業界）に対する知見やメッセージを含んでいる必要があります。このように書くと、何か、非常に難しいことをみなさんに要求しているように思われるかもしれませんが、基本的には、1) 実務上の課題や研究テーマについて、既存のアカデミックな概念を用いて定式化する（問題を正しくとらえる）、2) 分析手法について学び、自分の研究課題に応用する（手順に従って仮説検証等をおこなう）、といった作業が適切に行われていれば十分です。

上記の2点は、通常の修士論文でも求められる作業ですが、専門職学位論文の場合は、研究テーマが、実務的かつ社会現象全般にわたるため、勉強しなければならない範囲が広がります。つまり、ひとつの研究テーマに対してひとつの学問を勉強すればよいのではなく、MBAを通じて学習したすべての知識（あるいはさらにそれらを超えた知識）を総動員して、専門職学位論文を作成しなければなりません。

ただし、この作業を一人で行うことは困難です。現代経営学演習では、少人数での授業を通じて、学生が取り組もうとしている研究課題は何か、それが社会に対してどのような含意を持っているのか、どのようなアプローチ方法により問題を解決しようとしているのか、といった事柄について、所属ゼミ生と指導教員が、問題意識を共有化（共感）し、建設的な意見の交換、アイデアや分析方法の教えあい等を通じて、専門職学位論文の完成を目指すこととなります。論文自体はあくまでも個人の責任で執筆・完成することになりますが、教員としては、論文完成というマラソンの「伴走者」として、研究指導を行いたいと考えています。

II スケジュール

① 9月17日（土曜日）

午後から M2 の研究発表会がありますので、演習自体は午前中（1・2限目）のみです。

- ・各自の自己紹介（各自 5 分程度、パワーポイントまたは口頭のみでも OK）
- ・ゼミの運営方針・スケジュール等・提出物管理・連絡方法等の確認
- ・次回以降のゼミ内容（課題等含む）について説明します。

パソコン等は各自準備してください。

なお、午後からのポスターセッションは、皆さんが目指す専門職学位論文の参考となるものなので、テーマ、構成・分析方法等について、積極的に質問等を行ってください。

② 10月22日（土曜日）

午前は、研究科内で利用可能なデータベース、参考文献の探し方、図書館に保管されている学位論文等の探し方について説明します。午後は、各自の研究テーマについてプレゼンテーションしてもらいます。

1・2限目 データベース、参考文献、過去学位論文等の探し方。

3～5限目 各自テーマ発表（一人15分程度（目安、質疑応答含む））。

各自発表の際は、1）テーマ（演題）、2）問題意識（動機）、3）分析方法（研究内容）、4）研究スケジュール、についてまとめたものを、パワーポイントもしくはワード等で発表してください（直前にファイル等を全員で共有できるようにしておいてください）。

③ 12月24日（土曜日）

各自の研究テーマに近い既存の研究論文（専門職学位論文含む）を少なくとも1本を選び、1）論文の全体構成（章立て）、2）研究動機およびRQ、3）先行研究、4）研究アプローチ、5）結論（考察・提言含む）、について解説してください（一人30分程度）。パワーポイントもしくはワード等で発表してください（事前に、ファイル等を全員で共有できるようにしておいてください）。選ぶ既存の研究論文は、邦語・英語、定量・定性、一般・専門職等の違いを問いません。

④ 2月18日（土曜日）

各自の研究内容について、ひとりずつ説明してもらいます（個別面談形式予定）。

論文の全体構成、参考文献の読み解き状況、検証課題の具体化、分析アプローチ、今後の作成スケジュール（インタビューやアンケート調査の予定含む）等について伺います。当日の説明資料は、パワーポイントもしくはワードで作成してください（なお、資料作成の際は、既存研究論文の書き方・論文構成等を見本等にしてください）。

Ⅲ 今年度の目標・進め方

演習担当者の専門は、金融・ファイナンスですが、金融業界周辺の話題のみならず、デジタル社会、イノベーション推進、社会インフラの維持・革新、消費者ライフスタイルの変化、SDGs/ESG といったテーマ等、幅広く扱います。

まずは、皆さんが抱えている問題意識や研究テーマを伺った上で、分析方法（定量・定性）や研究の方向性についてアドバイス等を行いたいと考えています。

来年度以降のゼミのスケジュール感は次の通りです。

2023年3月～4月ごろ（副指導教員の選定）

5月～6月（副指導教員へのコンタクト・説明・アドバイスもらう）

6月 MBA 論文の論題提出（教務提出）

7月 卓越論文発表会（3本）（6月ごろゼミ指導教員が推薦）

8月 学位論文提出締め切り

9月 修了者発表会（ポスターセッション、合格者のみ）

秋以降 加護野忠男論文賞の候補選定と選考

Ⅳ 専門職学位論文の評価基準について

1. 論文に対して誠実かつ真摯に取り組んでいること。
2. 仕事で抱いた問題意識に関連したテーマを設定していること。
3. 現実に対して意味のある結果と含意を導出していること。
4. その結果と含意を導くプロセスが信頼に足り、説得力があること。

Ⅵ ゼミ生に求めること

専門職学位論文の作成作業がメインとはなりますが、そもそも、なぜ MBA に進学して、自分は何をしたいのかということに常に意識するようにしてください。1年半はあっという間に過ぎ去ってしまいます。過去の演習担当をしていて感じるのは、何をやりたいのか、何を解決したいのか、という問題意識が明確な方（他者にわかりやすく説明できる方）ほど、質の高い専門職学位論文の完成につながっていたように思われます。幅広い視点、柔軟性とフットワークの良さ、他の受講生に対する誠実な対応が、ゼミの時間を有益なものにすると考えています。